

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回多摩市地域福祉計画推進市民委員会
開催日時	令和4年7月22日（金） 18:00～20:00
開催場所	多摩市役所 西1会議室・オンライン会議併用
正副委員長	宮城孝委員長 室田信一副委員長
出席者 (敬称略)	宮城孝 千葉胤昌 安藤弘喜 紀初子 松井徳孝 澤昌秀 近藤浩 ＜オンライン参加者＞ 荒井永理 川辺一成
欠席者 (敬称略)	室田信一
事務局	小野澤（健康福祉部長） 松崎（福祉総務課長） 川添（福祉総務課担当係長） 海老澤（福祉総務課主事） 岩坪、大塚（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所）
議題	0. 出欠・資料確認 1. 市の強み・弱み・課題のとりまとめ 2. 課題等を踏まえた施策の方向性について 3. その他 (1) 今後の流れについて (2) 連絡事項 4. 閉会

(会議の経過)

発 言 者	発言内容・決定事項等
委 員 長	<p>(0) 出欠・資料確認</p> <p>皆さんこんばんは。またコロナ感染して不安が大きい中での第2回多摩市地域福祉計画推進市民委員会を開催したいと思います。オンラインの方も含めて、活発にご発言を頂ければと思います。</p> <p>では、議題1「市の強み・弱み・課題のとりまとめ」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>(1) 市の強み・弱み・課題のとりまとめ</p> <p>(「資料1「多摩市の強み・弱み・課題についてのとりまとめ」について説明)</p>
委 員 長	<p>前回の意見をまとめていただきました。これを前提にしながら、議題2で、「地域活動の活性化」、「相談支援体制」、「生活困窮者自立支援制度」、「コロナ禍の影響に対する支援の在り方」、「防犯・防災」、「情報提供・情報入手」、「ユニバーサルデザイン・多様性の尊重」についてご意見を頂きたいと思いますので、先に進んでよろしいでしょうか。</p>
委 員	<p>(異議なしの声あり)</p>
委 員 長	<p>では、議題2「課題等を踏まえた施策の方向性について」、まず「地域活動活性化」について、ご説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>(2) 課題等を踏まえた施策の方向性について</p> <p>(資料2「地域活動活性化」について説明)</p>
委 員 長	<p>地域福祉計画の中で、地域活動活性化は大事な項目になります。ここは住民の活動ですので、社会福祉協議会の策定委員会でもかなり議論があったところです。地域福祉計画では、行政は基盤整理、促進をする役割だと思います。ご意見、アイデア等はありませんか。</p>
委 員	<p>方向性のところで、ライフスタイルに合った参加の仕組みづくりが必要であると提案されていますが、これが一番難しいと感じます。私は老人クラブの関係をしていますが、高齢者のためにある老人クラブの加入者が高齢者の3%未満と非常に少ない状況です。千葉県の高齢者クラブでは、行事の1つにeスポーツを取り入れている所があるそうです。これから零細化を迎えた中で、思い切ってそういったところまで考えていかなければいけないのかと、非常に難しいということを感じています。</p>
委 員 長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。おっしゃったとおり全国的に老人クラブの加入率は減っています。これは、行政で十分に検討していただければと思います</p>

(会議の経過)

	<p>が、補助金の管理が負担になっているところもあるようです。</p> <p>高齢者の生きがい、市民活動をする独自の組織をつくったら、人口 1,000 人で、囲碁、将棋、歴史を学ぶ会、歩こう会、手芸等 19 の市民活動があります。これはまさに、今おっしゃった自分が好きなことをやるときには、皆さんは集まれるのです。男性の参加率が 40% と高いのです。多摩市は、趣味を持っている方は多いと思いますので、老人クラブの在り方を行政が本気になってご検討いただくといいと思います。ただ、コーディネートする人材が必要なので、生活支援コーディネーターがもっと介入していいと思います。高齢化率は高くなっているのに老人クラブの加入率が下がるというのは、新たな参加システムが必要だと思います。</p> <p>高齢者問題以外についてのご意見はありませんか。</p>
委員	<p>今の高齢者の問題と同じような悩み、課題は、地域の自治会にもあります。私の地域は、畑が住宅になって新しい方たちがどんどん増えています。そこに自治会の加入案内をすること自体、ハードルが高く、1 軒ずつ回るにしても、不審者等の問題でなかなか玄関を開けてくれないとか、チラシを入れてもそのままになっています。高齢の方は活動が難しいので退会し、新しい方に入ってもらうのは難しいということで、自治会員自体が少なくなっています。</p> <p>地域の中で増やしていくことは難しい現状がありますが、災害があった時に、新居の方や高齢者の無事を確認するためには自治会が知っていなければいけないという観点で、自治体が関わる形ができることで、自治会自体を活性化させたり、加入率を上げることにならないかと常々思っていますので、検討をお願いします。</p>
委員	<p>高齢化の老人会の問題や地域での状況の話がありましたが、「方向性・施策」の中で、「それぞれのライフスタイルや価値観に合った参加の仕組みづくり」は、とても難しいと思います。ライフスタイルも、高齢者に限らず中高年の方たちの今の生活の現状を絡めて見たときに、自治会に加入するかしないかは、価値観ではなく、ライフスタイルがそれぞれの中で精いっぱい生活している現状があるので、地域の中で活動をしていこうとすると、年齢を超えたイベントを通して地域を知っていく。活動して初めて地域の大切さとか、声掛けとか、自分が地域に住んでいる一員であるという自覚が生まれるのではないかと思います。</p> <p>私が住んでいる団地では、管理事務所の役員は 1 年単位の輪番制です。高齢者は高齢のため役員を断ったり、どうしてもと言われて引っ越す人もいますが、負担の少ない役が変わってもらうという人もいます。そういう協調性も、地域で学べることだと思います。また、団地全体の防災訓練のプロジェクトチームが訓練を企画するときには、高齢者から現役の中高年の人たちが順番に役を担うため、会社や家族の旅行よりもその役を優先してやっていく中で、地域にはこういうことが大事だとか、地域にこういった方たちが住んでいることが分かったという声がありましたので、高齢者だけではなく、年齢を超えた地域の大きな一つの事業として、地域を学ぶ機会があればいいと思います。</p>

(会議の経過)

委員	<p>この「現状・問題」、「課題」、「方向性・施策」は、何をするために今議論をしているのかを確認したいのが1つです。この「方向性・施策」でいいのかを確認してほしいという話であれば、そもそも資料の作り方で、「現状・問題」では目に見えている現象が並べてあり、そこに隠れている原因が本来の課題。それを掲げて、どう解決していくか、そのための方向性が出てきて、最後に具体になると思うのですけれども、「課題」の整理ができていないような気がして、何を議論してほしいのか資料をもらった時から思っていました。</p> <p>「近所付き合いをしない人が3割」の何が問題なのか、何が課題なのか、何を解決するのか、全然見えてきません。近所付き合いをしなくてもいいという人を行政は課題としていますが、近所付き合いをしていないことがどういう課題になってくるのか。高齢者でしたら高齢者福祉につながるかもしれませんが、若い人はしなくても課題ではないので、その辺の現状分析の深掘りがされていないため、何を議論していいのかよく分かりません。「方向性・施策」では、こういったものを出していけばいいのか見えません。</p> <p>福祉の関係は、行政的な観点でやっているもので、行政として、市役所として、税金として公金を使って何をしていくのかでは、何を作ろうとしているのかがまずあって、その観点から見た時に、それらの現象がどういった課題になり、それを解決する方法として、見捨てるとか、この範囲以外はやらないとか、市民に任せて行政はやらないとか、そういう方向性を出してほしいのかが、よく分からないのです。</p>
委員長	<p>ご指摘のとおり、様々な課題の整理、方向性、施策の整理が十分されていないという印象ですが、市民の立場から、どこが課題で、こういう方向性でというご意見を頂くのは無意味ではないと思います。ご自分の立場からの経験やご意見を頂きたいと思いますが、それを整理していくのが行政の役割なので、もう少し、その辺りの整理をお願いします。</p>
委員	<p>現状から課題を起こすのは、問題解決のプロセスだと思います。「現状・問題」の高齢化や後継者不足は、どこでも抱えている問題です。リーダーの情熱でその地域が活性化することも現実だと思います。世代交替とよく言われますが、世代を変えるという発想ではなく、元気な高齢者はいるので、その人たちに問題意識を持ってもらい、リーダーあるいは執行する側に入ってもらおうということで、どんどん草の根を広げる形のほうがより現実的だと思います。</p> <p>実際に理解を求めるには、趣味を持っている人たちの集まり、サロンという形で横の連絡を取って、幾つかの塊で地域の福祉活動をしている方々の集まりが輪になり、それが全体的に大きな輪になって、地域の福祉に関心を持ってもらう。</p> <p>どんどん高齢化していくので、地域での見守りや安否確認が非常に重要な問題になっています。人数が多いほど、安否確認や見守りの精度が上がります。私は十年来福祉活動をやっているのですが、現状の問題や課題、方向性も見えてきます。これを毎年繰り返してやったとしても、福祉活動にはこれでいいという到達点はないと思っています。自治会活動などに出てこられないというのは、子どもが小さいとか仕事の</p>

(会議の経過)

委 員 長	<p>関係もあり、まさにライフスタイルや価値観がそれぞれ違うので、それを取り除く形で、出てこられる時だけお願いしますという参加型の行事や活動をしていけば、ある程度方向性も見えてくると思います。</p> <p>問題解決の方向性は、このようなものではないかと思います。</p> <p>社協は6年後の多摩市を想定しています。2025年に団塊の世代が75歳以上となり、多摩市は団塊の世代が多いはずなので、今までのリーダー層が高齢化して、担い手不足が顕著になる。ボランティア活動も自治会活動も、新しい担い手をどう確保するかが非常に大きな課題で簡単な課題ではないという議論が、昨日の社協の委員会で出ました。持続可能なという部分を具体化していく必要があると思います。</p> <p>年齢を超えたものが大事ということで、横浜市神奈川区のNPO法人親がめでは、行政も支援して、高齢者が子育て支援に参加をしており、活発に、楽しそうにしています。学校でも、子どもに大きなインパクトを与えていると思います。</p> <p>若い人たちが地域になじむのは子育て支援で、地域に感謝します。例えばイギリスでは、ホームスターターといって1週間に2回、子育て経験者たちがボランティアをする。日本でも100の地方自治体で始まっています。高齢者で集まるだけではなく、工夫すれば多様な交わりを持つことができます。ライフスタイルや価値観が変わると、地域はありがたいという思いになる。地域への愛着は人との出会いだと思うので、その辺はまだ工夫できるのではないかと思います。</p> <p>ご指摘のように、まだ課題が見えないというご意見や、無償でやるかという話です。町田市は民生委員が50人欠員です。しかも高齢化の高い団地で欠員が出ていて、無償の民生委員はもう無理です。専門で訓練をしてもらって雇用をして、そこで独居高齢者を訪問するというふうにしないと、善意だけでは無理な時代ではないかと思います。この問題は、「持続可能なビジネスとして地域で様々な資源を生かす」とあります。つまり、高齢者の方も年金が下がっているので働かざるを得ないので、地域活動である程度お金が稼げるというところまで突っ込んでいかないと、善意だけでできるかという問題意識は私も持っています。次回、そこもさらに検討されたらいいと思います。</p> <p>次の説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>「現状・課題」、「課題」が深掘りできていないというところ、資料については、申し訳ございませんでした。本日の資料の目的は、これまでの議論を踏まえて、こういった必要があるとか、こういった方向性を目指すべきというところで広く意見を頂ければと思っています。事務局としても、深掘りを進めていきたいと思っています。</p> <p>(資料2「相談支援体制」について説明)</p>
委 員 長	<p>「相談支援体制」について、ご意見、ご質問はいかがでしょうか。</p>
委 員	<p>今、中部、永山のほうで高齢者の見守り相談支援窓口が稼働していますが、いい制</p>

(会議の経過)

	<p>度だと評価しています。高齢者だけではなく、他の課題なども気軽に相談に行ける窓口ができないか、また、ほかのエリアにもスライドすることはできないかというところ。もう1点、市役所のどこに相談したらいいのかを黄色い冊子にまとめてくださったので、それをお渡しした方には連絡先や制度の話ができますが、その冊子知らない方がたくさんいます。ラインなどで、どこに相談すればいいのかが分かる制度だけでも早めに作っていただけないかと思います。いいものが浸透しないのというところは、法改正など限界があるので、その辺りの改善は必要だと思っています。すぐに対応していただいて、多摩市にはありがたいと思っています。</p>
事務局	<p>中部包括支援センターのお話を頂きました。高齢者だけではなくという形が、今後どういうふうにできるかは、庁内横断的に進めなければならないところがありますので、全てをまとめてという形は難しいと思いますが、子育ての分野においては、子育て包括支援センターの仕組みを作っているところです。</p> <p>どこで相談を受けても、市としてはそれが例えば高齢者だけの話ではなくて、高齢者がいる世帯に別の課題があるお子さんがいるという話があった場合は、庁内で情報を共有できるような仕組みも今後作っていきたいと思っています。相談場所自体は全部まとめることは難しいかもしれませんが、仕組みとしてはできるような形も考えているところです。</p> <p>高齢者の見守り相談窓口は中部包括でやっていますが、もう1カ所、愛宕商店街の所に北部地域包括支援センター愛宕支所が昨年できまして、高齢者見守り相談窓口も併せてやっておりますので、市内では今2カ所です。今後のことは未定ではありますが、次の高齢の計画の中で検討していくところかと思っております。</p>
事務局	<p>黄色い冊子は、A3の用紙を八つ折りにしているポケットタイプの「たまポケ」でしょうか。</p>
委員	<p>A3の半分で、庁内の相談先が一覧になっています。健幸まちづくり推進室の方に頂いたと思います。</p>
事務局	<p>健幸まちづくり推進室でも、庁内の相談場所を一覧にしてまとめたA4の両面の二つ折りのものがあります。おっしゃるとおり、紙だと限界があると私どもも感じておりますので、パンフレットやQRコードなどでつながるところにも取り組んでいきたいと思ひますし、便利だと言われるものを多くの方に知っていただきたいと思っていますので、ご意見を持ち帰らせていただきます。</p>
委員	<p>「誰(どこ)に相談したらよいかわからない人は約4割」と書いてありますが、高齢者は、民生委員や友愛訪問でなくても、つぶやきがあるとどこかにつながっているという点はあると思います。どうしたらいいのかわからないというのは40代~50代です。たま広報をよく見ていただくといろいろ書いてありますが、自分の困り事が先立って、どうしたらいいのかわからなくなるので、その時は民生委員や市役所</p>

(会議の経過)

	<p>の窓口に声をかけてくだされば道はあると思います。</p> <p>それと子どもですが、お母さんや友達、先生に言えないこと、いろいろな悩みを自分で抱えている子どもが多いと思います。今話題になっていますヤングケアラーは、子どもだけの問題ではなく家族単位の問題で、奥深くデリケートな問題です。民生委員は、校区别連絡会で小中学校に出向いて、児童委員として学校の先生たちと、子どもの様子や見守ってほしい家族について情報交換をしています。その中で、子どもが影響されているのは、家族の問題、親の問題、虐待などがあり、心が痛むような子どもだけ、子どもにもプライドがあると思うし、親にもプライドがある。守秘義務もあると思うし、個人情報でもあります。とてもデリケートな部分の子どもの相談については、民生委員・児童委員としても、どうやってその子どもと接点を持つかは、とても大きな難しい問題です。民生委員同士では、まず、自分たちから子どもたちに近づいていこうと話をしています。公園で遊んでいる子どもたちに声掛けをしたり、遅れ気味で登校している子どもを見かけたときは、「どうしたの？」というような姿勢で近づいて、結果、問題解決につながればいいと思います。</p> <p>学校の先生は、親はプライドの問題もあって子どもに関知しないでほしいと言って解決につながらない。子どもは、親の顔を見ながら、いろいろな問題について言っているのかどうか悩みながらという、とてもデリケートで難しい問題だと思います。その辺の相談支援体制としては、子どもからの電話はないと思いますので、地域での見守りを含めた気付きが子育て家庭支援センター等につながるしかないのではないかと思います。</p>
委員長	<p>子どもからの電話がないということでしたが、八王子や中野では、小学生、中学生からの電話がかなりきていると聞いています。LINE もありますので、子ども自身が相談できる場を地域に作っていくことが大事だと思います。相談するのは親御さんでも子どもさんでもいいということで、まだ手はあるのではないかと思います。</p>
委員	<p>相談する場所を整備するのはいいと思いますが、相談を受けた場所の人が相談者に近づくことがもっと大事だと思います。ここが、問題解決の大きな要点だと思います。ただ相談して物事を受け取るだけではなくて、相談された人が相談者に近づくということです。相談者が相談場所に近づくのではなくて、受けたら逆の立場で返していくということをつくり上げていく必要のほうで、もっと具体性をもって効果が出るのではないかと考えています。</p>
委員長	<p>大事なご意見だと思います。社会福祉、ソーシャルワークの分野では、最近、伴走型支援とよく言われています。問題解決に向けて、相談された側が寄り添いながらというのは、今までの行政が苦手なところですので、行政のほうの相談の質を高めていかなければいけないということです。これは全国的にやっていますので、多摩市も取り組んでくれると思います。</p> <p>そうでなければ民間になります。行政に相談に行くにはハードルがあるので、勇気をもって行きますし、行かない方も多いのです。ではどうやって近づくか。その近</p>

(会議の経過)

	<p>づく対象の情報は行政が一番持っているのです。例えば精神疾患では、精神障害者手帳を持っている人は一部で、医療を受けている人はもっと多いです。医療だけのサービスしかやっていないので、そういう方たちの生活相談までやっている自治体は、ほとんどないと思います。また、ひとり親世帯には児童扶養手当を出していますが、鹿島市がひとり親世帯にアンケートを採ると、フォーマルな相談相手は5%だけで、ほとんどが知人、家族、親に相談をしています。ひとり親世帯のフォーマルな相談は、ほとんど機能していません。その辺を踏まえながら、どういう人が相談を求めているか。ヤングケアラーは、教育委員会、学校の協力がないと無理だと思います。先生方は目いっぱいなので、先生方に責任を負わせるのではなく、学校にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがいます。</p> <p>引きこもりは、江戸川区が大規模な調査をしたところ、25世帯に1人いるそうです。全国の自治体でこれだけ克明に調査したのは、江戸川区だけです。今、社会に出そうということで、就労支援に力を入れ始めています。どの辺に重点的に相談支援をして解決に向けていくかは、もう少し絞り込む必要があります。</p> <p>子どもの問題は、早期発見・早期対応が大事です。引きこもりの平均は40代を超えています。20代は短いので、20代でできればいいのですが、今までやってこなかったのが、相当変えていかないと同じことを繰り返します。その辺りが課題の抽出が大事です。縦割りの串刺しについては、部長がおっしゃったとおりです。</p> <p>次の「生活困窮者自立支援制度」について説明していただければと思います。</p>
事務局	<p>「生活困窮者自立支援制度」については、今まで大きく議論が出たところではありませんが、コロナの影響で生活困窮者が増えているといったご意見を頂いていますので、次の計画の中で、これまでの生活保護から生活困窮者活に枠を広げて考えていきたいというところで記載させていただいています。</p>
委員長	<p>(資料2「生活困窮者自立支援制度」について説明)</p> <p>コロナで、飲食店、観光業、自営業、ひとり親世帯、外国人の方は、生活困窮の状況が窮迫するのではないかと、非常に心配しています。</p> <p>委員、特例貸付について、説明ができますか。</p>
委員	<p>コロナの関係もあって、総合支援資金の貸付、緊急小口資金の貸付が、2年前から相当数増えていて、多いときで年間2,000件以上の相談や申請受付をしている状況です。支援の延長が引き続いており、多摩市においても相談件数は合計6,000件で、実際に申請があったのが4,000件まで増えています。</p> <p>今現在の制度は8月末で終了となっていますが、ここでまた第7波ということで、先行きについては分からないところです。社会福祉協議会からすると、給付ではなく貸付なので、生活に困っている方に小口とはいえ何度も資金を貸し付けると、償還する際混乱するということで、限度的に考えている次第です。</p>

(会議の経過)

委員長	<p>多摩市で、貸付の最高額が 200 万円、小口では 20 万円、相談が 6,000 件、貸付が 4,000 件。八王子は 27,000 件で、数が多くて社協はすごく大変でした。社協職員のジレンマは、一人一人の生活状況を丁寧に聞ける余裕がなかったため、今どういう生活を送っているか分からないのです。コロナの影響が、この生活困窮者の所に一番大きく出ています。日本の産業構造が第三次産業頼みで、飲食店、タクシー、自営業、フリーランスに非常に負荷がかかりました。その逆に、コロナでリスクも高まっていますので、福祉では介護職に人手不足の影響が出ています。</p> <p>知られていないのが求職者支援制度で、職業訓練を受けながらスキルを研ぐということで、この訓練を受けた人たちの就職率は高いのです。介護も 80% 近く求職が来ています。つまり、今までハローワークに任せていた、地方自治体の弱みなのです。そこをもっと地元の人手不足のところで、新しい産業、日本で人手不足は IT ですが、スキルが必要です。人への投資を現場サイドでもっとうまくやっていかなければいけない。</p> <p>飲食業はかなり厳しいので、その辺り、自治体レベルでどう有効な手だてを打てるかというところだと思います。</p>
委員	<p>困窮者とはどのレベルを言っているのですか。</p>
委員長	<p>生活保護は基準がありますが、生活困窮者の基準はありません。</p>
委員	<p>今回取り上げたものに入っているということは、多摩市としては、どういったものを突こうとして何をしようとしているかがよく見えていないのです。制度はあるけれども、これに関してうちは、年収が 2 割減っても給付金の対象外なので、子どもの学校をやめさせなければいけないくらいなのです。制度的に奨学金も借りられないし、給付金も一切ないし、何もないのです。そこは、生きているのだから学校をやめさせればいいのか、そうではないのか、どのレベルのものを困窮者としてやっていくのかをもう少し示していただくと議論になるのですが、それがないと大変よねという感じになってしまうので、もう少し個別具体的なイメージで、多摩市としてはこの辺を対象にしようと思っていますというのを示してもらえるとありがたいという気はします。</p>
事務局	<p>生活困窮者の自立支援は、市でも新たな層ということで取り組みを進めているところです。シンプルなすみ分けで説明しますと、生活保護を受ける前のぎりぎりの方々がメインターゲットとして経済的な面で生活困窮者と捉えています。</p> <p>ただ、この生活困窮の中には、経済的な困窮だけではなく、引きこもりで複合的な課題を背負ってしまって生活に多くの課題を抱えている方々も生活困窮というところのくくりには入ってきますので、経済的な面だけで線引きできるわけではありませんが、収入が最終的な生活保護というセーフティネットに到達する前に、生活を支えて自立につなげていこうというのが、主な趣旨になります。</p>

(会議の経過)

委 員	「しごと・くらしサポートステーション」は、どこにあるのですか。
事 務 局	ベルブ永山4階の永山ワークプラザの一番奥にあり、自立に向けた相談支援、就労準備支援に関する相談、家計の相談、引きこもりに関する相談を承っています。
委 員	自立支援で言うと、企業が求人しても来てくれないのです。仕事を選ぶのは権利ですが、どこまでをどうするのかというところと、当社の場合は、個人の状況を確認して、独り身だと雇用を躊躇することがありますので、就労させるために、何かあったときの保障まで広げて検討するべきだという感じがします。
委 員 長	実はそういう制度があって、認定就労訓練事業所もあるのですが、自治体が使っていないのです。コーディネーターが配置されてプランを作ることになっていますが、十分に使えていません。企業にとってインセンティブが制度上ないので、そこで躊躇されている企業があると思います。そういう効果的な転業システムを多摩市内でどうやったらできるのかということです。例えば、富士市のユニバーサル就労サポートセンターなど、先進的なものはあります。
委 員	生活困窮者で、複合的な課題を抱えている方がとても多く、年金生活者の方々が年金だけで暮らしていけなかったり、事業所や外国人の方なども多く相談に見えています。多摩市は、ベルブ永山、包括支援センターなどいろいろな所に相談窓口が置かれています。そこまで行けない人には相談窓口の専門職員が地域に出ていっている所があるので、市内のコミュニティセンターの活用は考えられないかと思った次第です。
委 員 長	出前相談でもいいと思います。そういうことについて、より地域ベースで、待っているだけではなく積極的に相談に乗るという姿勢、アウトリーチの手法もあります。次に、「コロナ禍の影響に対する支援の在り方」について、お願いします。
事 務 局	時間の都合で簡略に説明させていただきます。 (資料2「コロナ禍の影響に対する支援の在り方」について説明)
委 員 長	コロナの収束が見えない中で、大きな部分に影響続く気がします。運動不足やストレスがありますので、私の周辺でも、高齢者、障がい者、難病の方の虚弱化が進んでいます。この2年間のデータを客観的に出していただくと根拠になると思います。今、現場に行きますと、地域包括支援センターはかなり大変になってきています。多摩市の良さであった要介護認定の認定率の低さが変わるかもしれないという危機感がありますので、客観的に調べられたらいいと思います。しかも、75歳以上、団塊の世代の方が増えていますので、フレイル対策や新たなプログラムが必要だと思います。横浜市は市を挙げてやっています。これは一つのアイデアですが、皆さまの所

(会議の経過)

委 員	<p>はいかがでしょうか。</p> <p>社会福祉協議会では、活動ができないサロンが増えていますか。コロナが収まれば、担い手は高齢者でしょうか。その辺を説明していただけたらと思います。</p> <p>今、市内に 120 カ所くらいのサロンが存在していますが、コロナによって活動を停止したり、サロンができなくなってしまった所も多く、なくなってしまった所もありますし、コロナによって活動が制限されていますので、復活した所ではコロナ対策を講じながらなので、茶話会的な内容から、話し合いをしようとしても簡単にできない所もあるので、自治会等でやっているサロンは、オンラインでつないでオンラインサロンみたいな部分も出てきています。新たな取り組みをやっていただけるサロンも、担い手が高齢化してきているので若干減りつつありましたが、今は平行線をたどっているところです。</p>
委 員 長	<p>コロナがある程度収まることを見越しながら、新たな活動を提案していかないと、超高齢化で、コロナで弱っているのも、その辺の具体的なやり方を考えていく必要があると思います。例えば囲碁やカメラや歩こう会など、ライフスタイルに合ったものを地域ごとに考えて何かを注入していかないと、いずれ下火になっていくのではないかという危機感を持っています。認定率も調べながら。高齢者としては地域に近いほうがいいのではないかと思いますので、その辺り少し大胆な施策を考えてもいいのではないかと個人的には思います。</p>
事 務 局	<p>フレイルの状況をデータでという話ですが、コロナ禍でフレイルや認知症が進行するという健康二次被害への対策については、市としても、今後、取り組んでいかなければならないという認識をもっています。認定率は今のところ大きく変わっていませんが、フレイルの状況が進んでいるというデータは、高齢支援課で調べており、体力測定の結果等の数字で出ていますので、参考にご提示できると思います。</p>
委 員	<p>先ほど趣味の会の話も出ましたが、4月から小学校を改築して市民活動交流センターができて、そこの登録団体が 200 団体もあるので、抽選が当たらないのです。これから高齢者が増える時期で、10 年～20 年にわたって一時的に活動する場所が不足するので、活動場所の確保を市の施策として考えていただきたいと思います。</p>
委 員 長	<p>空き店舗や空き室の活用をするといいのではないかと思います。空き室、空き家は近隣の方々の反対があるかもしれません。200 団体あるということは、活動したい団体があるということです。</p>
委 員	<p>空き店舗の活用はいいと思いますが、団地の中の店舗が店舗でなくなると生活する食材が手に入らなくなったりするので、空き店舗の活用は、本来の店舗としての活用でないと難しいと思います。</p>

(会議の経過)

委 員 長	実際、団地はかなり空き店舗があるのではないですか。
委 員	空いていますけれども、昔の団地は個人に住まいと店舗区画を一体で貸したり売ったりしているので、その人の住まいをどこかに用意しなければ、店舗が空かないのです。空き店舗ありきというのは、分かりやすいけれども少し乱暴かなという気がします。
委 員 長	その辺は、住宅担当課とやればいいのかもかもしれません。川崎は、空き店舗に助成を出しています。
委 員	空き店舗に助成を出して店をもってくると、人が集まるので、相談窓口とかはできと思うので、窓口を違った目線から見たほうが、地域としては課題解決につながるかもしれません。
委 員 長	店を維持するためにというのは、今まで行政で相当議論しているのではないかと思います。
委 員	産業振興は、福祉の観点では議論していないと思います。
委 員 長	<p>店をどうやって維持するかも大事なことは分かりました。空き家は結構難しいのです。拠点をどうするかは具体策は、時間をかけて丁寧に議論しなければいけません。</p> <p>次にいきます。</p>
事 務 局	<p>時間の都合もありますので、「防犯・防災」、「情報提供・情報入手」、「ユニバーサルデザイン・多様性の尊重」については、まとめてご議論いただければと思います。</p> <p>(資料2「防犯・防災」、「情報提供・情報入手」、「ユニバーサルデザイン・多様性の尊重」について説明)</p>
委 員 長	ご意見、ご質問はありませんか。
委 員	5ページの防災について、今年の2月から、多摩市の自治連合会で、地域の防災に関するアンケート調査をして、データが出来上がりました。このデータは、自治連合会だけの問題ではないので、健康福祉や防災、社会福祉協議会にもお渡しします。そういう意味で、ここの部分については、かなり具体的な取組状況も、どういう課題を持っているかも分かりましたので、市民委員会の委員としても分析をして、皆さんにも私なりの意見を出したいと思っていますので、よろしくお願いします。
委 員 長	それはもうできているのですか。

(会議の経過)

委 員	冊子として出来上がりました。
委 員 長	<p>次回、事前に皆さんにお配りすると、実態に応じた課題が見えてくると思います。自治会、町会としての取り組みや、そこで足りない部分も含めて、要介護者支援、障がい者、要介護者についてもあると思います。外国人についてはないと思いますので、ぜひされたいと思います。貴重な情報をありがとうございました。</p> <p>委員どうぞ。</p>
委 員	<p>防災についてです。現状は未確認ですが、電源が落ちてしまった場合の非常用電源は、市役所にはあるけれども、ニュータウン通りが閉鎖されるので、聖ヶ丘や連光寺は市役所が持っている非常電源にはアクセスできません。病院は入院している人が最優先ということで、あることはあるけれども人手が足りないので稼働できないかもしれないということでした。</p> <p>桜の丘学園さんが都立なので、福祉避難所の指示が出る前に早期の段階で開けていただいて、車いすの子や聖ヶ丘や連光寺地区の要介護者で、地域的に整合性というか、エリアの人を診療できる、少なくとも一緒に避難できる対応をしていただくようにしていました。</p> <p>町の福祉避難所が開く段階までの暴風雨の中避難する場合、車いすの人は移動できないので、やはり協力いただいて、早期の段階で早い時間で開けていただかないと、福祉避難所はあるけれども、実際必要な人が大雨の中では移動できないというところを詰めていただけると、ありがたいと思います。その辺りは防災課ですか。</p>
委 員 長	<p>福祉避難所は福祉です。大事なご指摘で、福祉避難所の在り方は結構難しいです。施設も自分の所の利用者で精いっぱいの場合もあります。福祉避難所は、法制上はいったん一時避難所に行ってそのあと開設なのですが、それでは遅いだろうという議論があります。現場と相当議論しないと、受けた職員も被災者ですから、大変です。福祉避難所の在り方については、この計画で大事なご指摘です。地域福祉計画としては、要配慮者支援や福祉避難所の在り方、高齢者、難病の方、障がい者の方は不安なのです。非常用電源という具体的な話がありました。今後、福祉避難所の在り方を入れていくということです。</p> <p>「ユニバーサルデザイン・多様性の尊重」は、今回初めてです。全国の自治体の福祉計画の中でも、私が見た中では今まで外国人に触れていません。多文化共生ですけども、そんなことは言っていられない。外国人の方は生活に本当に困っているという辺りは非常に新しいので、先進的な自治体を調べていただきたいと思います。</p> <p>情報提供すれば、群馬県の太田市や浜松市。岡山県の総社市の片岡市長は、日本で一番外国人に優しいまちを目指しますと言い切っています。外国人の方だけではありませんが、岡山県で唯一5年間人口が増えている市です。参考までに、どういうことが大事か調べていただければと思います。</p> <p>「移動・住まい」、買い物、通院や交通関係との連携も大事です。</p>

(会議の経過)

委 員	「移動・住まい」の事例をお伝えします。うちのデイサービスの利用者さんが団地の5階に住まわっていて、階段を男性2人で担ぎ下ろしていたので介護サービスを利用されていたのですが、職員が退職することになって、男性1人では下ろせないでお断りせざるを得なかったということがありました。ヘルパーさんと一緒に下ろすということもありますが、サービス事業所の時間とヘルパーさんを組み合わせるのは難易度が高いです。
委 員 長	行政の住み替え支援には相談したのですか。
委 員	その方は、引きこもりの60代と50代の息子さんがいらっしゃる方で、事業者としても本当はいけないが、2件のどちらかを選ばなくてはいけない場合は、ご利用も難しいという判断をせざるを得なくなってくるような時代が今後あるのかなと思っています。
委 員 長	住替え支援はやっているけれど、うまく機能しているかどうかということがあります。エレベーターがない上の階の方が1階なりにというのは、前の計画から言われていて、居住支援協議会も含めて住替え支援をやっているのは聞いていますので、全くやっていないわけではないはずです。地域包括が行政の居住支援の所に相談に行っているかどうかです。
委 員	住み替えは個人の気持ちの問題なので、制度はあるし、使っているし、紹介もしていますが、嫌だという方もいらっしゃいます。制度があれば使えるかということ、難しい面がありますので、そこを本人の意志があるのもういいとするのか、移動するのにかしないのか、市のスタンスとして「方向性」の所に書かれるべきだと思います。
委 員 長	私が心配しているのは、上の階は大変なので1階に住み替えをしたくても、1階が埋まってしまっているのではないかということです。そういうことも調べられたらいいと思います。また、要介護の場合は、バリアフリーも必要になります。 時間が来てしまいましたので、次回についてお願いします。
事 務 局	<p>3. その他</p> <p>(1) 今後の流れについて</p> <p>(2) 連絡事項</p> <p>外国人や移動支援、住まいの支援については、ヒアリングをしたり、スタンスについても整理したいと思います。</p> <p>次回は、社協の地域福祉活動計画の委員会との合同開催とさせていただきたいと思いますので、9/27(火)18時から20時に、市役所で開催させていただきたいと考えています。コロナの状況もありますが、参加形式は対面と、ウェブも併用で、今回頂いた課題や方向性、市の考え方も踏まえて、地域づくりの視点や具体的施策な</p>

(会議の経過)

委 員 長	<p>どを議論していただく予定です。その後、10 月に庁内委員会、合同委員会を行い、11 月にパブリックコメントを実施したいと考えています。</p> <p>次回は、行政がやるべきことと、社会福祉協議会や民間の社会福祉法人や事業所などがやるべきこと、住民がやるべきことを整理して、焦点を絞って分かりやすく、限られた資源で成果を出すことや、コロナなどの新たな問題を踏まえながら議論を深めていきたいと思います。社協に対するご意見等もよろしくお願いします</p> <p>4. 閉 会</p> <p>本日は長時間お疲れさまでした。ありがとうございました。</p> <p>以上</p>
-------	--